

第1の柱

いしかりの未来を担う 子どもを育てる環境の充実



福祉と教育を横断的に組織した「子ども総合支援本部」を設置し、生活面や学習面などの総合支援対策をスタートさせました。

新年度においては、先に述べた調査の結果なども踏まえながら支援対象者の拡大を図るなど、よりきめ細やかな支援を行うこととしており、臨床心理士を新たに配置するなど専門スタッフの強化に取り組み、対応力の向上を図ります。

◎子どもの居場所づくり

多様な学びの機会を提供し、世代を超えたさまざまな人たちとの食事や対話の時間を通じて、子どもが安心と自己実現ができる「居場所」を、市民と協働し設置を進めます。

◎心身ともに健やかな成長を促す取り組み

子どもたちが心身ともに健康でいられることは、市民全ての願いであり、そのため学校での授業と連携を図りながら、放課後を利用し基礎体力向上のための運動プログラムを展開するとともに、総合型地域スポーツクラブや大学と

連携し、幼児から中学生を対象に子どもの体力・運動能力の向上を目的としたスポーツ教室や食育講座を実施します。

本年秋には「あいぼーと」前に新たな公園を開設します。周辺一帯を子どもたちの遊び場として整備し、健全な体を育むことのできる空間を提供していきます。

◎仕事と子育ての両立を支援する取り組み

妊娠前から子育て期まで切れ目のない支援を強化するため、妊産婦ケア事業や産前の家事支援サポートを実施します。また、妊産婦や子どもの養育・保育などの総合的な相談窓口体制を充実させるための専門スタッフを配置し、利用者への包括的な支援体制の強化を図ります。さらに、保護者の就労ニーズへの対応が急務となっていることから、放課後児童クラブを増設し、保育環境の質と量の確保に努めます。

◎移住・定住促進のための取り組み

若者・子育て世帯が希望を持ち、この石狩の地で安心して生活をスタート

することができるよう、移住・定住者の住環境・就業施策や就学前の保育・教育に対する経済的負担の軽減などの

施策を展開します。

第2の柱

いしかりの成長を促す 基盤づくり



◎観光を視点とした新たな産業の構築

「農業」「水産」「観光」「地場産業」に関する4つの振興計画を改定しました。これらの計画は、担い手育成を基本にICTの導入を図るなどにより経営基盤の強化や作業の効率化、消費拡大、滞在・体験・交流型の観光など、二層の産業振興を進めようとするものであり、連携することによってその効果をさらに高めていきたいと考えています。

新年度からは各計画に基づき事業を展開し、本市の地理的な優位性、地域資源としての歴史・文化・自然科学などを活かし「道の駅」を核とした厚田・浜益両区にわたる観光産業の施策を講じるなど、新たな発展軸の創造を目指します。

◎「あいろーどパーク」を起点とした地域づくり

「あいろーどパーク」内に設置する「道の駅」は、来年春のオープンに向け、市の100%出資による新会社を設立するとともに、増毛山道を含めた周

遊ルートや地場産品の開発、さらには地域力を活かした「民泊事業」の取り組みなど「着地型観光」に向けた基盤整備を図っていきます。

先行的に「道の駅」と「資料館」両機能の施設整備を進めていますが、本プロジェクトは緒に就いたばかりです。今後においても、両区の地域振興につながる事業展開を着実に進めていきます。

◎新港の強みを活かしたまちづくり

石狩湾新港は、本道の日本海側における国際物流・エネルギー供給拠点としての役割も担っており、石狩湾新港管理組合において年々増加を続ける港湾利用に対応した施設整備が進められています。

また、背後の工業・流通地区においては、情報社会の進展に寄与するデータセンターの増設も順調に進むなど、今後の成長が期待される新たな産業の進出が始まっていると認識しています。

この地域は、経済環境の変化に順応しながら、今や北海道を代表する産業

空間の一つとして、着実に成長を遂げています。

今後、石狩湾新港の未来を切り拓くため、進出企業の先進的イノベーション、人手不足に対応した支援策にも積極的に取り組んでいきます。

● 社会実装に向けた発信

経済産業省の委託事業として平成25年から始まった「高温超電導直流送電」の実証実験は「石狩超電導・直流送電システム技術研究組合」から、世界トップクラスの研究成果を収めていると伺っています。

新年度は「石狩市超電導直流プロジェクト推進協議会」において世界に向けて広く情報発信するとともに、社会実装に向けた動きを加速するため「国際フォーラム」の開催が予定されています。

市としてもこの事業を支援し、世界各国の企業や投資家、研究者とのネットワークの構築を図っていききたいと思います。

● 東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み

この大会における追加種目として「野球・ソフトボール競技」が決定したことから、これまで市と関係団体などで組織する「合宿誘致石狩市推進委員会」において、ソフトボール日本代表チームなどの合宿誘致活動を展開し、このたび「女子TOP日本代表チーム」の第

2次国内強化合宿地として正式に決定したところです。

子どもたちにとつて、トップアスリートを身近で感じることは、夢や希望を未来につなぐ誇らしい出来事になると考えています。

第3の柱

誰もが健康的で安心して暮らせる地域社会の実現

● 国民健康保険制度改革に向けて

平成30年度に国民健康保険事業の財政運営の責任主体が、市町村から北海道に移ります。本年2月、道より納付金等の仮算定結果も示され、4億円を超える不足が予想されるなど、極めて厳しい状況にあるとの認識に至ったところ。新たな制度への移行にあたっては一般会計からの繰入はもとより、国税の段階的改正は避けられないものと考えており、その手法などについてはこれから精査・検討を進めます。

● 健康寿命の延伸

健康は私たちがかけがえのない財産であり「健康寿命を引き伸ばすこと」は人生の幸せを享受することにほかなりません。したがって「やらなければならぬ健康づくり」から「やりたくなる健康づく

さらに、海外代表チームの選手と地域住民の人的・経済的・文化的な相互交流を通じ、地域の活性化を推進するため、姉妹都市交流のあるカナダの代表チームをお迎えする「ホストタウン」登録に向け取り組んでいきます。



くり」「楽しい健康づくりへ」をスローガンに掲げ、官民一体となつて取り組みを進めるとともに「国民健康保険データヘルズ計画」に基づく各種保健事業を継続して実施していきたいと考えています。何より必要なことは、市民一人ひとりが健康目標を持つて取り組むだけでなく、地域全体で実践することであり、全市的な健康づくりムーブメントを起こしていきたいと思えます。

● 介護予防・日常生活支援総合事業

介護保険制度として、新年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まり、要支援者の「訪問介護（ホームヘルプサービス）」と「通所介護（デイサービス）」が全国一律の事業から市の独自事業となります。急速に進む超高齢社会を背景に、介護給付費の増加が見込まれる中で、持続可能な介護保険制度を

るとともに、サービスの質が低下しないよう、共に考え、共に実践していく地域包括ケア体制を構築していきます。

● 手話の普及に向けて

昨年市内で発生した交通事故において、手話による救急業務が行われ、あらためて手話の普及は大切なことと認識したところです。

石狩翔陽高等学校では、カリキュラムで全国初となる「手話語」の授業を4月より開始することとなつており、市としても支援していきたいと考えています。

また本年秋に、全国手話言語市区長会主催により「手話は言語である」との理念のもと「第1回手話劇祭」が開催されることになっていきます。

● 防災・災害対策

昨年、本道に台風が相次いで上陸・接近し、甚大な被害をもたらしたことは、あらためて災害の恐ろしさを実感したところです。

災害は、いつ、どこでも起こり得ることであり、二層の緊張感を持つて備えなければなりません。

本年2月、北海道から日本海沿岸の津波浸水想定が公表されました。これに対処するため、地域住民としっかりと話し合いを重ねながら「石狩市地域防災計画」の見直しを行い「地区防災ガイド改定版」の全戸配布を行います。